

文芸

俳句

信号の先も信号鱈雲

池田 逸子

総身の汗もろともに野良着脱ぐ

伊藤 敬子

台風又来ぬ間に米となりにけり

今関満喜子

秋の蚊の驚愕せしめ大都会

魚地 照子

別腹と云ふて良く喰う葉月かな

川島 通則

風祭り獅子登りゆく大梯子

向後 寛

鈴虫へはやし立てたる子の真顔

越川せつ子

次々と宇宙の秋は機体呑む

小松 藤男

稲刈つて里ぼつかりと顔を出す

佐瀬 輝夫

青柚子を摺つて娘は独り者

椎名万里子

大蜘蛛の浮きいる足の速さかな

市東富美江

夕暮れの光流るゝ秋の川

鈴木とし子

福耳の児の泣き声や天高し

鈴木 利子

決勝戦食い入る背なに赤とんぼ

土屋美枝子

鬼舞をつたゑし村の秋深し

土屋 義昭

手入れなき空き家の庭は蟲しぐれ

内藤 くに

コスモスや足を伸ばせし散歩道

早川 勇

露の世の露踏みラジオ体操へ

藤田 雅夫

短歌

朝光に霧の晴れ来る出口池

周りの木木の影を映せり

芹川 初子

木屋の香の匂へるに気付く時

散歩の道にはかに親し

西山満里子

ポット蒔きの白菜早も本葉出で

畑に植ゑゆく日も間近なり

押尾 輝子

夏の季を惜しむかのやう百日紅

庭先たかく未だ咲きをり

水須 俊

田の道を葎の花群れ夕やみに

丈高くして白く浮きいつ

加瀬 弘子

置きざりし杖をさがすとひき返す

採りし野菜を手がかりとなし

青木 秀子

ひまわりの咲きしが後を一面に

コスモス咲きぬ紅と白入り

浅野 榮子

懐メロに振りつけも入れ歌いたる

舞台の人に拍手止まざり

椎名美枝子

セルロイドの玩具思はず抜け殻が

蟬の姿のままに透けるつ

八角 三枝

杉の樹に二羽の白鷺止まりて

朝日にほのとその身染めつ

斎藤つね子

作品展

◎町民会館ミニギャラリー

11月 (展示なし)

12月 絵手紙ひかりの詩

◎文化会館ロビー展

11月 (展示なし)

12月 パンの花クラブ

◎サビア展

11月 俳句会

12月 華舟会

◎銚子商工信用組合展

11月 (展示なし)

12月 俳句会



火事にあつて残されたもの

二十年前に発掘調査された
篠本遺跡群では、奈良・平安時
代の住居跡や畑跡が多数発見
され、多くの様々な遺物も出土
した。中でも城山遺跡で最初
に発掘された住居跡では、生活
していた当時のままの遺物が多
数出土し注目された。

この住居跡は、今から約千二
百年前の平安時代前期のもの
で、奥行1.6m、幅2.3mの
小ささであったが、当時の食器
にあたる土器が十五点ほど、そ
のほか鎌、砥石、そして炭化し
た豆や布まで出土し、まさに直
前まで生活していたようであ
った。さらに床面には多くの焼
けた木材や焼土が堆積し、火事
にあったことを物語っていた。
当時の家は木の柱にカヤ葺き
て火事にもあつたら、ひとた
まりもなかったであろう。遺
跡を発掘していると、たまにこ
うした火事で焼けたてあろう
住居跡が出てくる。



▲城山遺跡の火事にあつた住居跡出土の遺物

また、芝崎遺跡では洪水に飲
み込まれたらしい住居跡もあつた。
人間は昔からこうした災害
にあいながらも、めげずに生き
てきたことを示す資料である。
十二月二十一日まで町民ギ
ャラリーで、『考古資料で見る
横芝光町の歴史展3(奈良・平
安時代)』が開催されています。
ぜひご覧ください。
(社会文化課 道澤 明)